

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21 年 1 月 13 日

【評価実施概要】

事業所番号	2191100052		
法人名	株式会社 総合福祉ひまわり		
事業所名	グループホーム 市之倉ひまわり		
所在地	岐阜県多治見市市之倉町13丁目83番地353 (電話) 0572-28-3113		
評価機関名	NPO法人ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成21年1月7日	評価確定日	平成21年2月4日

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

市街地から離れた山の中腹に開けた広大な団地の一面に建つ、幼稚園と軒を並べる開設10ヶ月の真新しいホームである。玄関から居室に至るまでベージュ色で統一され、明るくやわらかい雰囲気を出している。居宅介護支援、通所介護、小規模多機能型居宅介護も併設し、地域に於ける幼老一体の総合福祉、介護ステーションの実現を目指している。熱意溢れる管理者と職員による認知症ケアへの取り組みや記録等の整備は、長い経験を有する他の同業施設と遜色無い。幼稚園を経営していればこそ得られる園児達との触れ合いの中で、生きる力をもらい、利用者は体験してきた知識や遊びを伝える等、一人ひとりの表情も明るく活気に溢れ、更なる向上が期待されるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）
	外部評価は今回が初めてなので、比較検討すべきものは無い。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）
	職員間で、まだ、評価に対する意義や意識の理解に至っておらず、今回は管理者が自己評価に取り組んだ。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4, 5, 6）
	開設後まだ2回の運営推進会議であるが、地域や行政からの参加者に加え、利用者も参加して、ホームの現状を報告し、グループホームを理解してもらい、今後、どのような方向性をもってホームを育て、ケアの質の向上に繋げていくか検討しているところである。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7, 8）
	苦情箱は設置していないが、職員は家族と話し易い関係作りに努めており、面会の折等、気楽に意見や希望を聞き、相談にも応じている。管理者は、何事も一部の職員とで決めることは避け、申し送りノートに記入し、共有している。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）
	自治会には加入していないが、運営推進会議会議に参加している自治会長の計らいで、自治会役員会議の報告を受けたり、ホームの行事を地域に回覧し、夏祭りに団地のボランティアを動員したり、地域の餅つきに利用者職員を招待してもらう等、互いに連携し、交流が深まっている。

【情報提供票より】 (平成 20 年 12 月 10 日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 20 年 3 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 10 人, 非常勤 8 人, 常勤換算	16 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2 階建ての	1 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	54,000 円	その他の経費(月額)	27,000~ 円	
敷金	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有:(100,000円)	有りの場合償却の有無	無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	500 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり		1,200 円	

(4) 利用者の概要 (平成 20 年 12 月 10 日 現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	1 名	要介護2	8 名		
要介護3	5 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81.4 歳	最低	63 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	市之倉診療所
---------	--------

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「幼稚園児との触れ合いの中で子供達と共に平和を育てよう」との方針の下、幼老一体の介護を目指している。	○	「ひまわり」のイメージに添う地域密着型サービスとして、グループホーム独自の理念を、全職員の意見を反映させながら、創りあげていく取り組みに期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	グループホーム独自の理念作りは今後の課題であるが、職員は、理想とする認知症ケアを目指し、共有の目標を立て、日々実践に取り組んでいる。	○	理念に添った目標を明確にする体制を整え、全職員に周知徹底していくことが望まれる。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入していないが、運営推進会議に参加している理解ある自治会長の図らいで、自治会役員会の結果を報告してもらい、ホームの夏祭りに団地のボランティアを動員したり、地域の餅つきに利用者と職員を招待してもらおう等、交流が一段と深まっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	初めての評価であり、職員間で評価の意義の理解に至っておらず、今回は管理者が1人で取り組んだ。	○	次回からは、全職員の意見を反映した自己評価への取り組みが期待される。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長、民生委員、包括支援センター職員、市職員の他、利用者も参加し、3ヶ月に1度、開催している。グループホームの現況を伝え、地域の情報を得る等、運営に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	開設時は電話による連絡や相談が多かったが、現在は直接出向き、指導を受けたり、意見の交換をすることも増えており、連携のペースは太くなっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	年3回発行する「ひまわり便り」に個別のコーナーを設け、検診結果や日常の様子等を記載している。変化のあった時は、面会時や電話できめ細かに報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に利用者の日頃の状態を伝える中で、家族の思いや意向を把握し、出来る限り運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設して日も浅い為離職率は低く、ダメージは生じていない。定員に満たない時から、2つのユニット合同で過ごす時間が多くあり、利用者はどの職員にも馴染んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者による企画で認知症や感染症についてホーム内研修を実施しているが、運営規定にある採用時3ヶ月研修や継続研修は実施していない。	○	職員一人ひとりの新たな技量の向上を目指す研修を行うことが出来る様、業務体制を図り、職員育成への取り組みが期待される。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者と利用者を伴い交互に行き来し、お茶を飲んだり、運動会をする等、交流を図っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に行うアセスメントやフェイスシートから得られた情報を活用し、出来るだけその人に合った生活を目指しているが、利用者が入居に不安や抵抗がある場合は、家族の協力を得、体験入居をしながら、安心感を持って、少しずつ馴染めるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員と利用者は、洗濯、掃除、食事の準備等を共に行いながら、教えたり、学び合いながら生活している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の何気無い会話やつぶやき、行動の中には、家族も知らない事、家族の思いとちがう態度や行動をみることがあり、職員間の情報を密にし、気づきノートに記録する等、共有化を図り、困難な事例は、ケア会議で検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	面会時に家族から得られた意向や思いと、利用者の日常生活の中から把握した気づきが反映された介護計画となっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の更新日、または、利用者の体調等の変化に気づいた時には、家族や医師を交えてケア会議を開き、サービスをどう変更するかを話し合い、新しい会議計画に移行している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	協力医療機関による往診、ホーム内の看護師による健康管理、病院への受診介助等、利用者や家族からの要望には出来る限り対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>協力医による往診や緊急時の対応はあるものの、利用者は家族の同行により、入居前のかかりつけ医への受診を継続している。かかりつけ医への受診後は、家族より受診結果の報告を受け、その内容を協力医へ伝えるなど情報の交換が出来る体制を整えている。</p>		
19	47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>終末期に於ける看取りの指針は協力医とも協議し、明文化してあり、契約時に承諾を得ているが、利用者や家族の意向の変化による要望には、ホームの能力が許す限り受けるようにしている。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>職員は利用者に対し、プライドや尊厳を守った言葉掛けや対応をとっている。個人情報の取り扱いに関しては、厳重な管理体制が施されている。</p>		
21	52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一人ひとりのペースはその日、その時によって違うので、利用者の気持ちを尊重し、その人のペースに合わせた生活が出来るよう支援している。</p>		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	管理者は努力して選び抜いた数種類の主食、副食、デザート等を色分けして細長いマグネット板に書き、職員はそれを満遍なく組み合わせ、1日分の食材を利用者と買い物に行き、下ごしらえから協働し、共に味わい、食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は基本的に午後からであるが、その日の体調や精神の状態に合わせて、午前や、翌日にずらして支援することもある。また、希望により毎日の入浴支援も実施している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの出来る事や楽しみを把握する事で、用具をそろえたり、場面作りをしている。生活の中では、掃除、洗濯、調理等の役割を持つとともに、気晴らしに運動を兼ねて周辺の散歩をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物やサツマイモ堀り、公民館での催し物に出掛けたり、幼稚園のバスを借りて「地球村」へ椎茸を採りに行き、そこで食べてきたりと、戸外に出掛けられるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は日中施錠していない。玄関以外の扉は少ししか開かない仕組みになっており、開放感があっても安全は確保されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防の指導により避難訓練は実施しているが、防火関係者のみの参加で、利用者、職員を含めた全体の訓練にはなっていない。	○	利用者を含めた全員参加の訓練を実施し、加えて、夜間対策や地域住民への協力呼び掛け等への取り組みに期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は利用者一人ひとりの身体状況に合わせた食事形態、カロリー、水分、塩分摂取量などが共有出来る食事表を作成し、それに基づいて支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレや浴室はリビングに近く、利用者や職員の目に付く場所にあり、十分な面積があるため、見守りや介助がし易い。厨房は開放的で、食卓と隣接し、家事や食事の準備をしながらの会話も一段と弾むよう工夫がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	全体的に居室はシンプルで、持ち込み品は少ないが、押入れが大きな造りで、持ち込んだ小物類を収納できる。中には、位牌や馴染みの品々を、持ち込んだ家具の上に設置し、家での生活を継続している部屋もある。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。